資料 UC-1-3

けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2006の概要

＜11/13（月）大阪国際会議場 12 階　特別会議場＞

1．開催目的

本協議会は、平成１４年１０月設立以降、「産学官連携」によるＩＴ分野の研究開発を推進することにより、新技術の開発、人材の育成、新産業の創出を目指し、高機能ネットワーク、ヒューマンコミュニケーション、ネットワークロボットを研究テーマに取り組んできたところである。

今後協議会では、今年４月にスタートしたＮＩＣＴの「第２期中期計画」を基本に、これまでの研究成果を踏まえつつ、「新世代ネットワーク」、「ユニバーサル・コミュニケーション」をテーマに、新たな分科会体制で研究活動を推進する。

今回のシンポジウムは、会員様に新たなテーマにおける今後の取り組みを情報発信すること、また本テーマに関係の深い非会員企業（関経連会員企業、学会など）に幅広くＰＲし新規会員を獲得することを目的とする。なお、特にけいはんなオープンラボが中核拠点して取り組む「ユニバーサル・コミュニケーション」を重点テーマに開催する。

2．テーマ

「ユニバーサル・コミュニケーション社会の実現に向けて」（案）

3．内 容

基調講演、新分科会の活動概要、パネルディスカッション、ポスターセッションの４部構成する。

特に、基調講演でユニバーサル・コミュニケーションの全体概要について紹介し、パネルディスカッションにおいて、その実現性や経済効果などについて企業、研究者、国の立場から討議し、来場者及び関係者にユニバーサル・コミュニケーション社会への“期待感”を持ち帰っていただくことを目標とする。

また、会場との一体感、参加感を醸成するため、基調講演でアンケートを実施し、その結果をパネルディスカッションにフィードバックし、会場からの意見も織り交ぜながら討議する。

◇　プログラム（案）

12:00	【ポスターセッション】 受付前「ホワイエ」にて展示
13:00	【開会挨拶】 ◇開会挨拶 ◇主催者挨拶
13:10	【基調講演】 「目指すべきユニバーサル・コミュニケーション社会像について(案)」
14:10	コーヒーブレイク

14:20	【新分科会の活動概要】 １）新世代ネットワーク分科会の活動概要（佐藤リーダー） ２）ユニバーサルコミュニケーション分科会の活動概要（西田リーダー） ３）ユビキタス＆ロボットシティ専門委員会の活動概要（萩田総括）
15:20	コーヒーブレイク
15:30	【パネルディスカッション】 ◇テーマ “ユニバーサル・コミュニケーション社会への期待” ◇チェア及びパネラーは調整中
17:30	閉　会
17:40～	交流会　「グラントック」

１）基調講演　＜60 分程度＞

◇演題（案）：目指すべきユニバーサル・コミュニケーション社会像について(案)

◇内　容：

社会環境の変化から見たユニバーサル・コミュニケーションに対する要請、目指すべきユニバーサル・コミュニケーション社会像について語る。

２）新分科会の活動概要　＜各 60 分程度（各 20 分）＞

・　各分科会リーダー、及び専門委員会総括より今後の活動概要を紹介する。

３）パネルディスカッション　＜120 分程度＞

◇テーマ

“ユニバーサル・コミュニケーション社会への期待”

◇討議内容

ユビキタスネットワーク関連市場全体は、2015 年には 100 兆円を超え、2020 年には 137.5 兆円に達すると予想されている。その内、ユニバーサルコミュニケション関連市場の割合は､2015 年には１～２割､2020 年には２～３割と予想され、新たな市場創造として期待される。

ユニバーサルコミュニケーションは、単に人やグループやその環境を時間や空間を越えてつなぐだけではなく、むしろ、つながり合った人々の社会・経済活動そのものを円滑に循環される潤滑油の効果を発揮することから、対象となる市場分野は、アプライアンス、プラットフォーム、コンテンツ、サービス、コマースが中心となると考えられている。

中でも、研究開発の成果として新たに登場するアプリケーションを、利用者（企業や消費者）にとってサービスやコマースにおける中核的な付加価値として提供できるかどうかが、ユニバーサルコミュニケーション市場形成の成功の鍵を握ると考えられる。

そこで、今回のパネルディスカッションでは、ユニバーサルコミュニケーション市場がもたらす経済波及効果（予想)、特にサービスやコマース分野を中心に生活者、企業、研究者、国の立場、また会場からの意見も織り交ぜ、その“現実性”について討議し、市場形成に向けた期待や課題、ひいては“オープンラボが果たすべき役割”を導き出す。

４）ポスターセッション（受付横「ホワイエ」にて常時展示）

各分科会の取り組みをポスターや実機によるデモンストレーションによる紹介し、「見て、さわって」いただくことで一層の理解と関心を持っていただく。

以上